

早稲田大学審査学位論文  
博士（スポーツ科学）  
概要書

運動部活動における外部指導者活用推進策の質的検討  
Strategies for Using External Coaches in School-Based  
Extracurricular Sports Activities: A Qualitative Study

2015年1月

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科

青柳 健隆

AOYAGI, Kenryu

研究指導教員： 岡 浩一郎 教授

## 本研究の背景

生涯に渡り人々が心身ともに健康であるために、運動やスポーツの持つ役割は大きいと考えられている。特に、青少年の運動やスポーツは推奨されてきた。青少年が運動やスポーツを行う機会として、我が国では運動部活動が広く行われているが、指導者不足などの運営上の問題も報告されている。活発な運動部活動を支えていくためには外部指導者を活用することが有効であると考えられるが、外部指導者の活用状況は十分ではなく、活用を推進していく必要がある。

## 本研究の目的

本研究では、質的研究手法を用いて、教員・外部指導者・潜在的な外部指導者（外部指導者になる可能性の高い地域住民）・外部指導者の活用を推進している組織という多面的な視点から、外部指導者の活用に影響する要因を明らかにすることを目的とした。

## 本論文の構成

本論文では、第1章において本論文全体の問題意識、意義、目的、全体の構成を示した。また、本論文の理論的背景となる先行研究をキーワードごとにまとめた。第2章では、外部指導者を活用する側である教員に行った調査から、教員の外部指導者の活用を促進または阻害する要因を示した（研究①）。第3章では、実際に活動している外部指導者を対象にした調査から、外部指導者の部活動関与を促進または阻害する要因を明らかにした（研究②）。第4章では、活用される側である潜在的な外部指導者の視点から、部活動関与の促進または阻害する要因を報告した（研究③）。第5章では、外部指導者の活用推進に関する取り組みを行っている組織を対象とした調査から、取り組みの詳細やその問題点・課題、工夫を明らかにした（研究④）。そして、第6章において、ここまでの4つの研究を総合的に考察し、効果的な外部指導者の活用推進策の提案を試みた。

### 研究①：教員の外部指導者活用の促進・阻害要因

研究①では、教員の外部指導者活用を促進または阻害する要因を明らかにすることを目的に、現在公立中学校もしくは公立高等学校に勤務している教員22名を対象に半構造化インタビュー調査を実施した。収集したデータはすべて逐語化し、KJ法を用いて促進要因および阻害要因それぞれを小カテゴリ、中カテゴリ、大カテゴリへと類型化した。その結果、促進要因には、部員の成長、練習の質の向上、地域とのつながりの強化、顧問の成長などが、阻害要因には、教育面の軽視、立場の逆転、制度による制限などが挙げられた。

### 研究②：外部指導者の部活動関与の促進・阻害要因

研究②では、外部指導者の部活動関与を促進または阻害する要因を明らかにすること

を目的に、現在公立中学校もしくは公立高等学校の運動部活動で活動している外部指導者 25 名を対象に半構造化インタビュー調査を実施した。分析方法は研究①と同様である。その結果、促進要因には、協力的な顧問、通しやすい環境、外部指導者の成長、人脈の獲得などが挙げられた。また、阻害要因としては、負傷者が出ることへの不安、不明確な立場や役割、学校の理解不足などが報告された。

### 研究③：潜在的な外部指導者の部活動関与の促進・阻害要因

研究③では、潜在的な外部指導者の部活動関与を促進または阻害する要因を明らかにすることを目的に、潜在的な外部指導者として、スポーツリーダーバンクに登録しているが、現在指導を行っていない者 12 名を対象に半構造化インタビュー調査を実施した。分析方法は研究①②と同様である。促進要因としては、やりがい、部員の成長、学校や顧問の理解、人脈などが、阻害要因には、指導への自信不足、情報の不足、不明確な立場、依頼がないことなどが類型化された。

### 研究④：組織的な取り組みの問題点や課題および工夫

研究④では、運動部活動での外部指導者の活用推進に関する組織的な取り組みの詳細と、その問題点や課題、工夫を明らかにすることを目的に、外部指導者の活用推進に関する取り組みを現在行っている、または過去に行っていた 11 組織を対象に半構造化インタビュー調査を実施した。分析では同一の取り組みに関連する組織をまとめ、取り組み A から取り組み G の 7 つの取り組みごとに、各取り組みの詳細やそれに関わる問題点や課題、工夫を整理した。そこから、各組織で共通している人材確保、採用前、活用中における留意点が見出された。

### 総合考察

研究①から④で調査した教員、外部指導者、潜在的な外部指導者、組織という立場の異なる四者の視点を総合的に考察した。効果的に外部指導者の活用を推進するためには、仲介組織は潜在的な外部指導者側と学校側の双方から情報収集し、人が関わって仲介していくことが重要である。また、外部指導者の指導の無償化や、コーディネーターの役割を地域の人々や学校へ委譲していくなど、コストの軽減を図っていく必要がある。さらに、仲介組織は地域の企業やスポーツ団体と連携し、人材の確保に努めなければならない。そして、正式採用前には必ず面談を実施し、試用期間を設けることが有効である。外部指導者の活用中は、外部指導者にすべてを任せきりにするのではなく、あくまで顧問が主体となり、外部指導者は顧問のサポートとして位置づけることが円滑な運営のために効果的である。そして、外部指導者と顧問で定期的なミーティングを行うなど、密なコミュニケーションを取り、一丸となった指導・運営を行うことが求められる。また、仲介組織や行政は講習会を開催し、外部指導者や顧問の参加を促すことが重要である。